

2022年3月期 第1四半期 決算説明会

2021年8月13日

富士フイルム ホールディングス株式会社

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

■ 2022年3月期 第1四半期 業績

(億円)

	実績	対FY20 1Q	対FY19 1Q
売上高	5,827	+27.7%	+8.8%
営業利益	563	2.8倍	+51.7%
当社株主帰属 四半期純利益	過去 最高 573	2.1倍	3.9倍

- ✓全ての事業セグメントで増収・増益。新型コロナの影響を受けた前年度から順調に回復。
- ✓1Qとしては過去最高益となる当社株主帰属四半期純利益を達成。業績好調に加えて、先端医療分野の出資先会社上場による投資有価証券評価益が寄与。

■ 2022年3月期 通期業績予想

(億円)

	前回予想	今回予想	対前回予想
売上高	24,400	25,000	+600
営業利益	1,800	2,000	+200
当社株主帰属 当期純利益	1,300	1,600	+300

- ✓好調な1Q業績を反映し、通期業績予想を上方修正。

1

富士フィルムホールディングスの2022年3月期第1四半期の業績ですが、売上高は5,827億円、営業利益は563億円となりました。

昨年度の新型コロナウイルス感染症の流行拡大影響から順調に回復し、全ての事業セグメントで増収・増益を達成しました。コロナ禍前の2019年度第1四半期比較でも大幅な増収・増益を達成しており、各事業がそれぞれの状況の変化に応じて、先手を打って対応することで、業績を回復させることに成功しました。

当社株主帰属四半期純利益は、第1四半期としては過去最高益となる、573億円となりました。新型コロナ影響からの着実な業績の回復に加えて、後ほどご説明する先端医療分野の出資先会社上場による、投資有価証券の評価益計上などが寄与しました。

通期業績予想について、第1四半期業績が好調に推移したことを反映し、売上高は対前回予想600億円増の2兆5000億円、営業利益は200億円増の2,000億円、当社株主帰属当期純利益は300億円増の1,600億円に、それぞれ上方修正します。

年間配当予想は、1株あたり100円を据え置きますが、今後の業績の遂行状況を見て、改めて決定します。

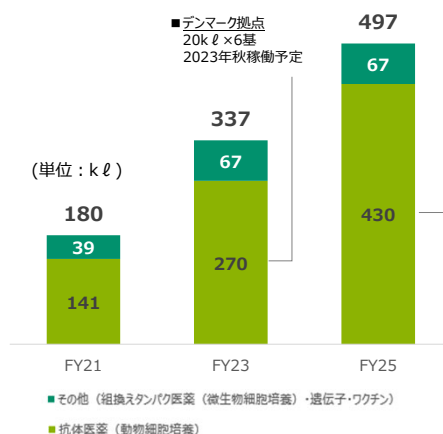
バイオCDMO事業

- ・欧米拠点への大型設備投資を決定。
総額約900億円、2023年後半稼働予定。
- ・米国における、遺伝子組換えタンパクワクチンの原薬製造キャパシティを現行の約2倍に向上させ、新型コロナワクチンの需要増にも対応。
- ・製造キャパシティの増強に加えて、業界トップクラスの生産性により、バイオ医薬品需要の増加に対応し、高品質な医薬品の安定供給に貢献する。

製造キャパシティ増強計画※

※ 年度末時点の製造キャパシティ

■北米拠点
20kℓ×8基
2025年春稼働予定



積極的な設備投資により、2024年度売上目標2,000億円の達成と、2025年度以降のCAGR+20%成長を実現する。

第1四半期のトピックスについてご説明します。

先ず、6月に発表したバイオCDMO事業の新規投資案件についてです。新たに欧米拠点への大型投資を決定いたしました。投資金額は総額約900億円で、需要が増加する新型コロナウイルス感染症のワクチンや、最先端医療分野の遺伝子治療薬などのバイオ医薬品の原薬生産能力を大幅に向上させます。増強設備の稼働は、2023年後半を予定しています。

こちらのグラフは、これまでの投資案件を積み上げた、製造キャパシティ増強計画です。今回発表した投資を含めて、2025年度末には約50万リットルまで製造キャパシティを拡充します。

ここで改めてお伝えしたいことは、バイオ医薬品の生産能力は、バイオリクターの容量だけではなく、1リットル当たり何グラムの、抗体などの目的タンパク質を産生できるか、すなわち生産効率も重要です。

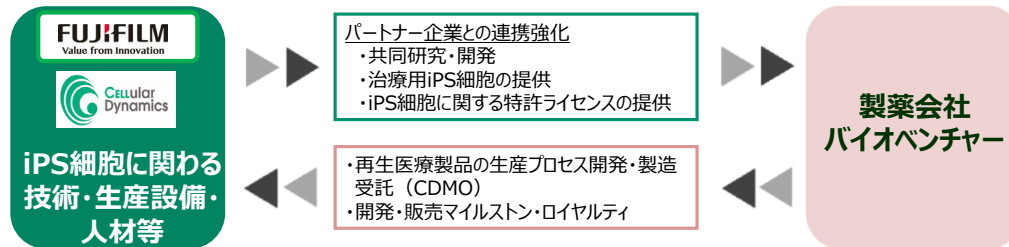
当社は、動物細胞培養では1リットルあたり10g以上の生産効率を実現する「Apollo™ X」、微生物細胞培養では1リットルあたり14gの生産効率を実現する「pAVEway™」という生産技術を有しており、どちらも業界トップクラスの生産効率を誇ります。

業界トップクラスの生産効率と、バイオ医薬品需要の増加に対応した積極的な設備投資による、2025年度には約50万リットルに達する製造キャパシティを強みに、今後もお客様の要望に応え、受注を拡大していきます。

今回発表した投資により、2024年度2,000億円の売上目標を確実に達成するとともに、それ以降も継続して、売上高年平均成長率20%を実現します。

ライフサイエンス事業（再生医療分野）

- ・他家iPS細胞を用いた次世代がん免疫治療薬の開発を目的に、米国子会社FCDIが出資参画し、設立したCentury社が米国NASDAQ市場に上場。それに伴い、投資有価証券評価益176億円を計上。
- ・独バイエル子会社の米BlueRock社とiPS細胞を用いた眼疾患治療法の研究開発における戦略的提携※に合意。3件の網膜疾患治療プログラムの開発に関して、契約一時金（30MUSD）を受領。また、研究開発および治験薬製造の一部にかかる資金（最大40MUSD）を受領予定。



再生医療分野では、iPS細胞に関わる技術・生産設備・人材等を活用したパートナー企業との連携を強化し、細胞治療の産業化を推進する。

※ 当社グループのFUJIFILM Cellular Dynamics, Inc. (FCDI) 、及びOpis Therapeutics, LLCと 3
大手製薬企業Bayer AG（バイエル社）の子会社であるBlueRock Therapeutics LPの3社契約

次に、ライフサイエンス事業です。ライフサイエンス事業は、再生医療・培地・試薬の3つのビジネスを展開しており、創薬支援関連ビジネスの強化を推進しています。

第1四半期のトピックスとして、再生医療分野での取り組みの成果を2点紹介します。

1つ目は、当社米国子会社FUJIFILM Cellular Dynamics, Inc.が出資参画し、設立したCentury社上場による、投資有価証券評価益の計上についてです。

Century社は、他家iPS細胞を用いた次世代がん免疫治療薬の開発を目的に、iPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるFCDIと、医療分野における米国有力ベンチャーキャピタルのVersant社が共同で設立した会社です。本開発にあたっては、大手製薬企業のバイエル社も参画し、開発費用を拠出しています。

6月18日に、Century社が米国NASDAQ市場に上場したことに伴い、保有する株式の評価益176億円を計上しました。上場後も、FCDIからCentury社へのiPS細胞提供等の取引を継続します。また、現在Century社が開発を進めているがん免疫治療薬について、生産プロセス開発や治験薬製造を受託する予定です。

2つ目は、バイエル社の子会社であるBlueRock社との戦略的提携についてです。今回の提携によりBlueRock社は、FCDIとその子会社Opis社が研究開発を行っている、非臨床段階の網膜疾患治療プログラム3件の独占ライセンスを取得できるオプション権を得ます。その対価として、FCDIとOpis社は、契約一時金3千万ドルと、研究開発および治験薬製造の一部にかかる資金として最大4千万ドルを受領します。今後の生産については、治験薬製造をFCDIが受託し、商業生産フェーズに移行した場合は、BlueRock社とFCDIの両社が担う予定です。

再生医療分野では、当社の強みが生かせる分野に注力するべく、昨年度にJTECを売却するなど、事業ポートフォリオのチューニングを進めてきました。当社の強みは、iPS細胞に関わる技術や、cGMPに対応した生産設備、専門スキル・ノウハウを有する人材等であり、ここでお伝えした2つの案件は、まさにその強みを活用した成果だと言えます。今後もパートナー企業との連携を強化することで、細胞治療の産業化を推進し、アンメット・メディカル・ニーズにこたえるための細胞治療製品の開発に取り組みます。

私からの説明は以上です。

(単位：億円)

	1Q				
	2021年3月期	2022年3月期	対2021年3月期	為替影響	対2021年3月期 為替影響除く
売上高	4,563 100.0%	5,827 100.0%	1,264 +27.7%	197	1,067 +23.4%
営業利益	204 4.5%	563 9.7%	359 2.8倍	40	319 2.6倍
税金等調整前 四半期純利益	422 9.2%	過去 最高 778 13.3%	356 +84.3%	51	305 +72.3%
当社株主帰属 四半期純利益	275 6.0%	過去 最高 573 9.8%	298 2.1倍	35	263 +95.6%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	68.80円	143.34円	74.54円	<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響：▲53億円	
為替：米ドル	108円	109円	1円安		
：ユーロ	119円	132円	13円安		

4

2022年3月期第1四半期の業績は、
売上高は、前年比27.7%増の5,827億円、
営業利益は、前年比2.8倍の563億円となりました。
税金等調整前四半期純利益は、Century社上場に伴う投資有価証券の評価益を計上
したことなどにより、第1四半期としては過去最高益を更新する、前年比84.3%増の778億
円、
当社株主帰属四半期純利益は、こちらも過去最高益を更新し、前年比2.1倍の573億円
となりました。

(単位：億円)

売上高	1Q		対前年度	為替影響除く
	2021年 3月期	2022年 3月期		
ヘルスケア	1,102	1,742	640 (+58.0%)	588 (+53.3%)
マテリアルズ	1,274	1,498	224 (+17.7%)	179 (+14.2%)
ビジネスイノベーション	1,689	1,861	172 (+10.2%)	110 (+6.5%)
イメージング	498	726	228 (+45.6%)	190 (+38.0%)
合計	4,563	5,827	1,264 (+27.7%)	1,067 (+23.4%)

*セグメント間取引消去後

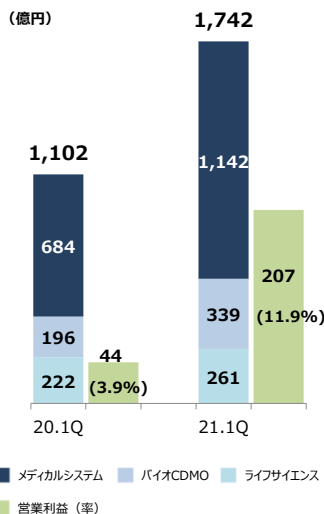
(単位：億円)

営業利益	1Q		対前年度	為替影響除く
	2021年 3月期	2022年 3月期		
ヘルスケア	44	207	163 (4.7倍)	155 (4.6倍)
マテリアルズ	131	213	82 (+62.9%)	76 (+58.4%)
ビジネスイノベーション	134	140	6 (+4.5%)	-2 (-1.3%)
イメージング	-30	80	110 黒字化	91 黒字化
全社/連結調整	-75	-77	-2 -	-1 -
合計	204	563	359 (2.8倍)	319 (2.6倍)

5

続いて、セグメント別の業績ですが、売上・利益はご覧の通りです。先般4月15日発表の新中期計画VISION2023でお話ししました通り、今年度より、ヘルスケアの業績を独立して開示します。

- 全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高対前年+58.0%、営業利益対前年4.7倍となる大幅な増収・増益を達成。



■ **メディカルシステム**：売上高1,142億円（対前年+67.1%）

- 富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、肺炎診断に有用な超軽量移動型デジタルX線撮影装置や、超音波画像診断装置の需要継続などにより、売上が大幅に増加。

■ **バイオCDMO**：売上高339億円（対前年+72.5%）

- バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加。

■ **ライフサイエンス***：売上高261億円（対前年+17.5%）

- ライフサイエンス事業は、バイオ医薬品製造用途の培地販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- コンシューマーヘルスケア事業は、サプリメント「メタバリアEX」などの販売が好調だったことに加え、化粧品も新製品が堅調に推移し、売上が増加。

※ライフサイエンス：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

まずは、ヘルスケアの業績の概要を説明します。

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高は、前年比58.0%増の1,742億円、営業利益は、前年比4.7倍の207億円となりました。

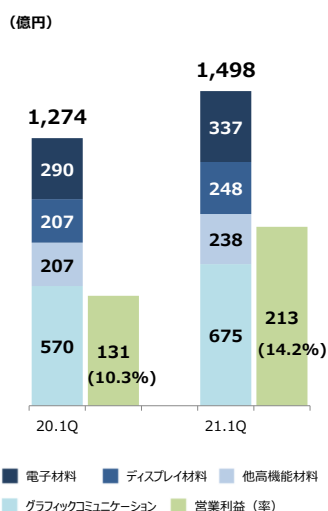
メディカルシステムは、富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、肺炎診断に有用な超軽量移動型デジタルX線撮影装置や、超音波画像診断装置の需要継続などにより、売上が大幅に増加しました。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加しました。

ライフサイエンスは、米国子会社FUJIFILM Irvine Scientificが展開するバイオ医薬品製造用途の培地販売などが好調に推移し、売上が増加しました。

コンシューマーヘルスケア事業では、サプリメント「メタバリアEX」などの販売が好調だったことに加え、化粧品も新製品が堅調に推移し、売上が増加しました。

- **新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、半導体需要の増加に伴う電子材料事業の成長が牽引し、売上高対前年+17.7%、営業利益対前年+62.9%となる大幅な増収・増益を達成。**



- **電子材料：売上高337億円（対前年+16.1%）**
 - 半導体需要の増加に伴い、CMPスラリーやポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が増加。
- **ディスプレイ材料：売上高248億円（対前年+19.6%）**
 - 新型コロナ流行下でのモニター、タブレット及びTV需要の増加や、スマートフォンの堅調な需要を受けて、各種の高機能フィルム製品の販売が好調に推移し、売上が増加。
- **他高機能材料※：売上高238億円（対前年+15.6%）**
 - 記録メディア事業では、新型コロナ流行下で落ち込んでいたテープ需要が徐々に回復傾向にあり、売上が増加。
- **グラフィックコミュニケーション：売上高675億円（対前年+18.5%）**
 - オンラインでの商談を積極的に活用するなど販売を伸ばし、売上が増加。
 - インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が欧州・中国のセラミック市場での需要増により好調に推移し、売上が増加。

※他高機能材料：産業機械事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

7

マテリアルズの業績の概要について説明します。

新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、半導体需要の増加に伴う電子材料事業の成長が牽引し、

売上高は、前年比17.7%増の1,498億円、

営業利益は、前年比62.9%増の213億円となりました。

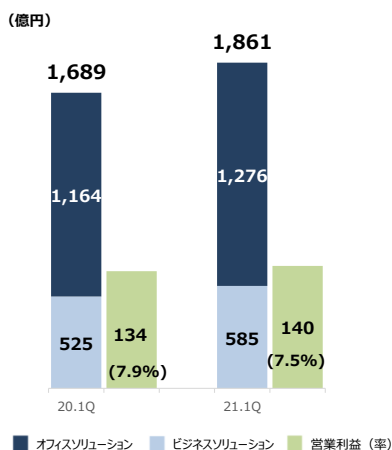
電子材料は、半導体需要の増加に伴い、CMPスラリーやポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が増加しました。

ディスプレイ材料は、新型コロナ流行下でのモニター、タブレット及びテレビ需要の増加や、スマートフォンの堅調な需要を受けて、各種高機能フィルム製品の販売が好調に推移し、全体の売上が増加しました。

グラフィックコミュニケーションは、刷版材料が新型コロナ影響から緩やかながらも回復しました。加えて、デジタルプリンティングデバイスがオンラインでの商談を積極的に活用するなど販売を伸ばし、売上が増加しました。7月1日に富士フィルムのグラフィックシステム事業部と富士フィルムビジネスイノベーションのグラフィックコミュニケーションサービス事業本部を統合し、双方の販売力や技術・製品力を組み合わせることで、アナログからデジタルまでのワンストップソリューションを展開していきます。

インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が欧州・中国のセラミック市場での需要増により好調に推移しました。インクの販売は、新型コロナ影響による需要の減少から回復し、ホーム・オフィス市場向け染料を中心に販売を伸ばし、売上が増加しました。

- 新型コロナ影響からの回復により、売上高対前年+10.2%、営業利益対前年+4.5%となる増収・増益を達成。
- 「FUJIFILM」ブランドでの新製品展開をスタート。新規OEM供給も含めたグローバル展開を更に加速する。



■ **オフィスソリューション：売上高1,276億円（対前年+9.5%）**

- オフィスプロダクト分野で、日本、中国、及びアジアパシフィック地域、欧米向け輸出のそれぞれで販売台数が前年を上回るとともに、新型コロナ影響からの回復に伴い、アフター売上も大きく成長。
- 「FUJIFILM」ブランドによるグローバル展開に当たって、2021年4月にはデザインを一新し、セキュリティ機能を強化したデジタルカラー複合機、及びプリンター「Apeos」の新製品を発売。

■ **ビジネスソリューション：売上高585億円（対前年+11.5%）**

- 国内での自治体向けシステムビジネスの獲得や、海外を中心にBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）事業の販売増などにより、売上が増加。
- 売上構成は、ドキュメントのデジタル化に貢献するBPO事業を中心とした「インダストリアルソリューション」領域が6割、SMB市場向けにITインフラ環境の提供を行うITアウトソーシングなどの「DXソリューション」領域が4割。今後、両領域の更なる強化により成長を加速させる。

ビジネスイノベーションの業績の概要について説明します。

新型コロナ影響からの回復により、
売上高は、前年比10.2%増の1,861億円、
営業利益は、前年比4.5%増の140億円となりました。

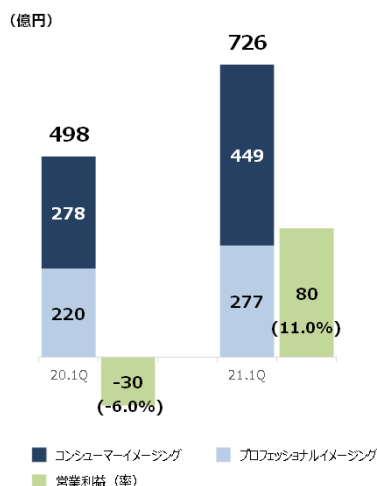
オフィスソリューション事業では、オフィスプロダクト分野で、日本・中国及びアジアパシフィック地域・欧米向け輸出のそれぞれで販売台数が前年を上回るとともに、新型コロナ影響からの回復に伴い、アフター売上も大きく伸長しました。

「FUJIFILM」ブランドによるグローバル展開に当たって、2021年4月にはデザインを一新し、セキュリティ機能を強化したデジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」の新製品を発売しました。今後、新規のOEM供給も含め、グローバル展開を加速していきます。

ビジネスソリューション事業は、国内で自治体向けのシステムビジネスが増加したことや、海外を中心にBPO事業が好調に推移し、前年を上回る売上となりました。当事業は、ドキュメントのデジタル化に貢献するBPO事業を中心とした「インダストリアルソリューション」領域と、SMB市場向けにITインフラ環境の提供を行うITアウトソーシングなどの「DXソリューション」領域で構成されています。売上構成は「インダストリアルソリューション」が6割、「DXソリューション」が4割であり、今後も新しいソリューション・サービスメニューを順次提供し、両領域の更なる成長を加速させていきます。

当社は、顧客の多様化する働き方やDXを通じた経営課題の解決を支援していくとともに、ビジネスイノベーション セグメント全体での成長を目指します。

- ・ インスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、売上高対前年+45.6%、営業利益対前年黒字化となる大幅な増収・増益を達成。



■ コンシューマーイメージング：売上高449億円（対前年+61.0%）

- ・ 新型コロナ影響からの回復に加えて、インスタントフォトシステムや、米国リテーラー向けのドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- ・ 2021年4月にミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」を発売し、トレンドに左右されないクラシックなカメラデザインを採用したことが市場に高く評価され、国内外で売上が好調に推移。

■ プロフェッショナルイメージング：売上高277億円（対前年+26.1%）

- ・ ラージフォーマットによる最高画質を小型ボディで楽しめるミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」が世界各地で高い評価を受け、新規ユーザーを取り込み、販売好調が継続。
- ・ 新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、売上が増加。遠望監視やマシビジョンなど監視計測領域の販売も好調に推移。

9

イメージングの業績の概要について説明します。

インスタントフォトシステムの販売が好調に推移し、売上高は、前年比45.6%増の726億円、営業利益は、前年比黒字化となる80億円となりました。

コンシューマーイメージング分野では、インスタントフォトシステムや、米国リテーラー向けのドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が増加しました。撮影したその場で写真をプリントして楽しめるインスタントフォトシステムでは、2021年4月にミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」を発売し、トレンドに左右されないクラシックなカメラデザインを採用したことが市場に高く評価され、国内外で売上が好調に推移しました。

プロフェッショナルイメージング分野では、ラージフォーマットによる最高画質を小型ボディで楽しめるミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」が世界各地で高い評価を受けるなど、デジタルカメラの販売好調が継続しました。また、新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、売上が増加しました。遠望監視やマシビジョンなど監視計測領域も好調で、前年を大きく上回る売上となりました。

					(単位：億円)				
	20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 6月末	対21年 3月期末		20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 6月末	対21年 3月期末
現金 及び現金同等物	3,961	3,948	4,314	366	長短社債 及び借入金	6,242	5,030	5,027	-3
受取債権	5,584	6,057	5,355	-702	支払債務	2,223	2,399	2,422	23
棚卸資産	3,809	4,177	4,580	403	その他流動 固定負債	4,814	5,841	5,892	51
その他流動資産	1,538	892	1,213	321	負債計	13,279	13,270	13,341	71
流動資産計	14,892	15,074	15,462	388	株主資本計	19,533	22,046	22,690	644
有形固定資産	6,005	6,353	6,431	78	非支配持分	405	176	179	3
営業権	6,872	8,042	8,078	36	純資産計	19,938	22,222	22,869	647
その他固定資産	5,448	6,023	6,239	216	負債・純資産 合計	33,217	35,492	36,210	718
固定資産計	18,325	20,418	20,748	330	(単位：円)				
資産合計	33,217	35,492	36,210	718	期末日 為替レート	20年 3月期末	21年 3月期末	22年3月期 6月末	対21年 3月期末
					米ドル	109	111	111	-
					ユーロ	120	130	132	2円安

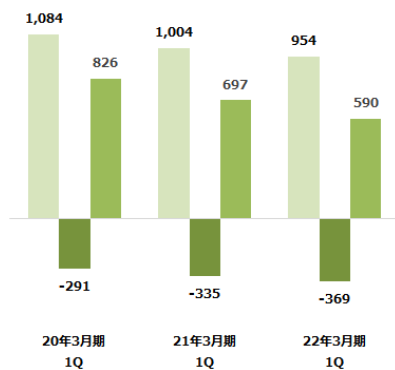
10

バランスシートについて説明します。

2022年3月期6月末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の増加などにより、2021年3月期末時点と比べ、718億円増の3兆6,210億円となりました。

負債は、71億円増の1兆3,341億円となりました。
株主資本は644億円増の2兆2,690億円となりました。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）
 （単位：億円）



(単位：億円)

	20年3月期 1Q	21年3月期 1Q	22年3月期 1Q
当期純利益	188	277	583
減価償却費	300	299	313
受取債権の増(-)減(+)	859	979	721
棚卸資産の増(-)減(+)	-304	-455	-396
営業債務の増(+)減(-)	-89	-166	51
その他	130	70	-318
営業活動によるC F	1,084	1,004	954
設備投資	-185	-230	-275
ソフトウェアの購入	-38	-38	-70
投資有価証券の売却・購入等	-33	-28	-5
事業買収	0	0	0
その他	-35	-39	-19
投資活動によるC F	-291	-335	-369
フリー・キャッシュ・フロー	793	669	585
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー*	826	697	590

11

キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、954億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資などにより、369億円の支出となりました。この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、590億円の収入となりました。

新中期経営計画「VISION2023」で発表した通り、売上高・営業利益の成長に加え、ROIC・CCCの向上を図ることで、キャッシュ創出力を強化し、2021年度から2023年度の3年間累計で1兆円の営業キャッシュフローを創出します。特に、投下資本の有効活用の観点から経営の効率性を示すROICをより重視し、創出したキャッシュは、成長投資に優先的に配分していきます。

2022年3月期第1四半期決算の説明は以上です。

2022年3月期 業績予想

(単位：億円)

	2021年3月期	2022年 3月期 前回予想	2022年 3月期 今回予想	対前年度	対前回予想
売上高	21,925 100%	24,400 100%	25,000 100%	3,075 +14.0%	600 +2.5%
営業利益	1,655 7.5%	1,800 7.4%	2,000 8.0%	345 +20.9%	200 +11.1%
税金等調整前 当期純利益	2,359 10.8%	1,850 7.6%	2,200 8.8%	-159 -6.7%	350 +18.9%
当社株主帰属 当期純利益	1,812 8.3%	1,300 5.3%	1,600 6.4%	-212 -11.7%	300 +23.1%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	453.28円	325.16円	400.18円	-53.10円	+75.02円
ROE	8.7%	6.2%	7.1%	-1.6%	+0.9%
ROIC	4.3%	4.6%	4.9%	+0.6%	+0.3%
CCC	123日	124日	124日	+1日	-
為替 : 米ドル	106円	104円	109円	3円安	5円安
: ユーロ	124円	124円	132円	8円安	8円安
銀価格 (/kg)	74,000円	84,000円	95,000円	+21,000円	+11,000円

* 2022年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：3億円 ユーロ：8億円

13

2022年3月期 業績予想について説明します。

2022年3月期の業績予想は、冒頭でお伝えした通り、第1四半期業績が好調に推移したことを反映し、売上・利益を上方修正します。

(単位：億円)

売上高	2022年 3月期 前回予想	2022年 3月期 今回予想	対前回予想
ヘルスケア	7,500	7,700	200
マテリアルズ	6,000	6,200	200
ビジネスイノベーション	8,000	8,000	0
イメージング	2,900	3,100	200
合計	24,400	25,000	600

営業利益	2022年 3月期 前回予想	2022年 3月期 今回予想	対前回予想
ヘルスケア	700	780	80
マテリアルズ	560	620	60
ビジネスイノベーション	750	750	0
イメージング	160	220	60
全社/連結調整	-370	-370	0
合計	1,800	2,000	200

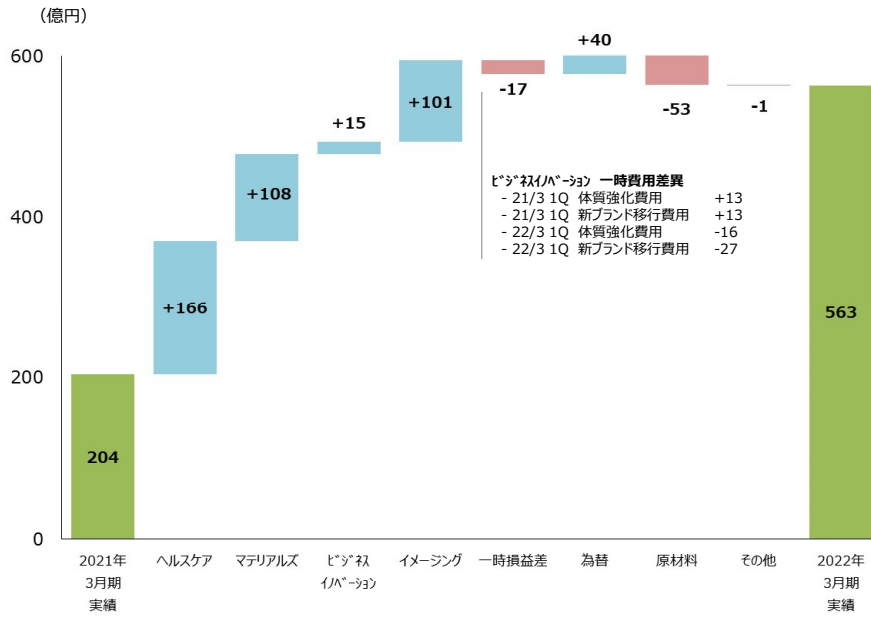
14

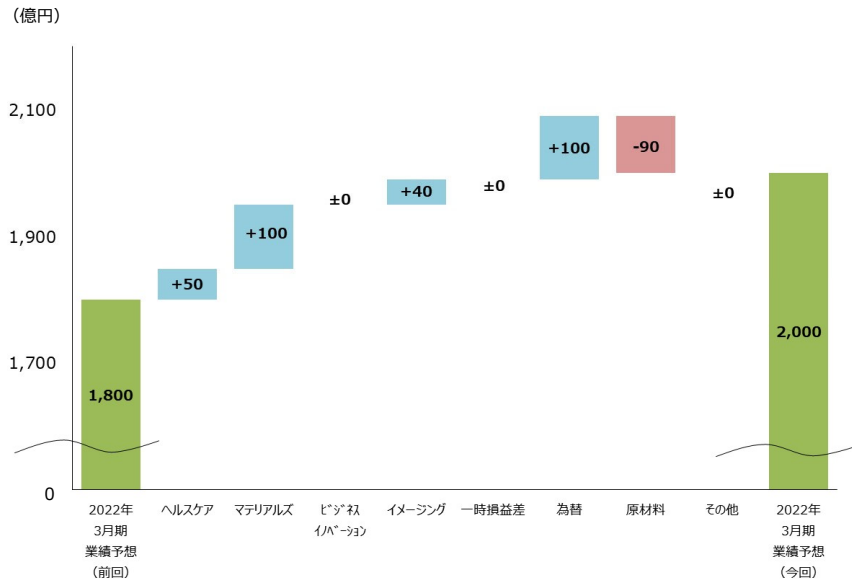
セグメント別業績予想はご覧の通りです。

日本及び東南アジアでの新型コロナウイルス感染症の流行拡大状況から、ビジネスイノベーションの業績は据え置きますが、ヘルスケア、マテリアルズ、イメージングの業績をそれぞれ上方修正します。

以上で、説明を終わります。

参考資料





売上高	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
メディカルシステム	684	1,142	458 (+67.1%)	420 (+61.5%)
バイオCDMO	196	339	143 (+72.5%)	132 (+67.1%)
ライフサイエンス	222	261	39 (+17.5%)	36 (+16.1%)
合計	1,102	1,742	640 (+58.0%)	588 (+53.3%)

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	44 [3.9%]	207 [11.9%]	163 (4.7倍)	155 (4.6倍)

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
電子材料	290	337	47 (+16.1%)	36 (+12.3%)
ディスプレイ材料	207	248	41 (+19.6%)	40 (+19.0%)
他高機能材料	207	238	31 (+15.6%)	26 (+13.2%)
グラフィックコミュニケーション	570	675	105 (+18.5%)	77 (+13.8%)
合計	1,274	1,498	224 (+17.7%)	179 (+14.2%)

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
マテリアルズ	131 [10.3%]	213 [14.2%]	82 (+62.9%)	76 (+58.4%)

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスソリューション	1,164	1,276	112 (+9.5%)	70 (+5.9%)
ビジネスソリューション	525	585	60 (+11.5%)	40 (+7.7%)
合計	1,689	1,861	172 (+10.2%)	110 (+6.5%)

*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
ビジネスイノベーション	134 [7.9%]	140 [7.5%]	6 (+4.5%)	-2 (-1.3%)

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
コンシューマーイメージング	278	449	171 (+61.0%)	149 (+53.0%)
プロフェッショナルイメージング	220	277	57 (+26.1%)	41 (+18.9%)
合計	498	726	228 (+45.6%)	190 (+38.0%)

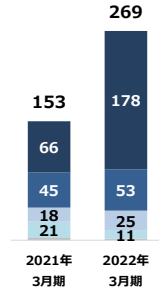
*セグメント間取引消去後

営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度	為替影響除く
イメージング	-30 [-6.0%]	80 [11.0%]	110 黒字化	91 黒字化

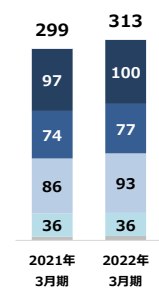
(単位：億円)

	2021年3月期 1Q		2022年3月期 1Q		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	44.5%	2,029	38.2%	2,224	195	(+9.6%)
米州	17.2%	784	21.1%	1,229	445	(+56.7%)
欧州	10.8%	496	12.5%	730	234	(+47.2%)
内、中国	15.0%	684	14.2%	831	147	(+21.5%)
アジア他	27.5%	1,254	28.2%	1,644	390	(+31.2%)
海外	55.5%	2,534	61.8%	3,603	1,069	(+42.2%)
合計	100.0%	4,563	100.0%	5,827	1,264	(+27.7%)

設備投資（有形固定資産）（1Q）



減価償却費（1Q）



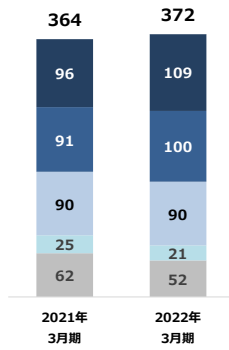
- ヘルスケア
- マテリアルズ
- ビジネスイノベーション
- イメージング
- コーポレート

（単位：億円）

年度	1Q		通期	
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 (予想)
ヘルスケア	66	178		
マテリアルズ	45	53		
ビジネスイノベーション	18	25		
イメージング	21	11		
コーポレート	3	2		
設備投資（有形固定資産）	153	269	1,009	2,000
ヘルスケア	17	28		
マテリアルズ	9	10		
ビジネスイノベーション	31	52		
イメージング	11	12		
コーポレート	4	7		
設備投資（ソフト、レンタル資産他）	72	109	444	600
ヘルスケア	97	100		
マテリアルズ	74	77		
ビジネスイノベーション	86	93		
イメージング	36	36		
コーポレート	6	7		
減価償却費	299	313	1,234	1,400

研究開発費 (1Q)

(単位：億円)



年度	1Q		通期	
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 (予想)
ヘルスケア	96	109		
マテリアルズ	91	100		
ビジネスイノベーション	90	90		
イメージング	25	21		
コーポレート	62	52		
研究開発費	364	372	1,522	1,600
<売上高比>	8.0%	6.4%	6.9%	6.4%
販売費及び 一般管理費	1,306	1,592	5,520	
<売上高比>	28.6%	27.3%	25.3%	

■ ヘルスケア
 ■ マテリアルズ
 ■ ビジネスイノベーション
■ イメージング
 ■ コーポレート

為替

(単位：円)

	2021年3月期					2022年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期 (予想)
米ドル	108	106	105	106	106	109	109
ユーロ	119	124	125	128	124	132	132

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2021年3月期					2022年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期 (予想)
銀	55	78	83	91	74	93	95

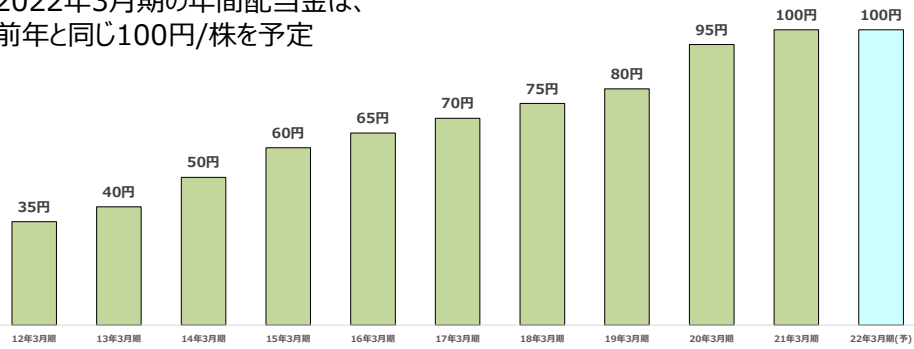
人員

(単位：人)

	2020.6末	2020.9末	2020.12末	2021.3末	2021.6末
連結	73,569	72,176	71,474	73,275	75,879

■ 配当金

2022年3月期の年間配当金は、
前年と同じ100円/株を予定



■ 自己株式取得

キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬	経口	日本	承認申請中
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph III
			米国	Ph II
	欧州		Ph II	
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I/ II a
			日本	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	承認取得
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタビンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	承認申請中

富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>

富士フイルムホールディングス 統合報告書2020

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>

IR資料室

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>

富士フイルムってどんな会社？

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>

グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>

新型コロナウイルス感染症への取り組み

<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>